



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

# 対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会  
発行人：高良 政勝  
編集：対馬丸記念会事務局  
この冊子は、厚生労働省の予算で作成しています

Tsushima maru press

令和8年2月28日発行 第52号

## 宇検村へ慰霊と交流 + 出会いと発見の旅



戦後80年を迎えた2025年、奄美大島の宇検村との交流事業が内閣府の補助金を受け、実施されました。そこは対馬丸事件の犠牲となった人たちのご遺体流れ着き、またかろうじて命を取り留めた人たちが、地元のみならずの手厚い看護により助けられた大切な場所のひとつです。2017年には船越海岸に「対馬丸慰霊之碑」も建立されています。

今回は、つしま丸児童合唱団のみなさんと、交流のため舞踊団のみなさんも同行することになり、参加者は総勢51人。現地での行程や飛行機の関係上、ABCのグループに分かれ、11月7日に出発し、8日に慰霊祭と交流会を開催しました。その後Aグループは鹿児島にわたり、悪石島を目指しましたが天候不良により欠航。そのため予定を変更し対馬丸とゆかりのある場所などを訪問することになりました。以下ご報告します。



元田信有前宇検村長



みんなで楽しくカチャーシー♪



船越(ふのし)海岸でおこなった慰霊祭



沖縄から訪問した芸能団



伝統芸能「稲すり節」

# 11月8日(土) 慰霊祭／交流会

心配していたお天気は驚くほどの快晴になり、船越海岸での慰霊祭は暑い日差しの中、宇検村の元山公知村長はじめ津田政俊宇検区長らもご参列いただき、琉球古典愛好会五つ餘の会のみなさんによる奉納演奏、そしてつしま丸児童合唱団の歌声を海風は優しくなびかせてくれました。見渡す海の向こうに白波が立ち、



つしま丸児童合唱団

こちらへ向かうさ  
まやその時間に周  
辺を飛び交つてい  
たいくつもの蝶の  
乱舞を、犠牲になっ  
た子どもたちが集  
まってくるようで  
あったと幾人かが  
話していました。

慰霊祭の後は場所を「元気の出る館」のホールに移し、100人ほどの参加者で交流会を行いました。記念会代表理事、宇検村村長そして宇検村議会の喜島孝行議長のごあいさつ、植田稔副村長の乾杯の音頭で宴も盛り上がり上がりました。地元の子どもたちの歌声、村野巳代治教育長の三線演奏と解説は勉強になりました。また、文化財にも指定されているという芦根民謡保存会のみなさんによる伝統芸能「稲すり節」は賑やかで圧巻でした。沖繩から訪問した芸能団も生演奏の地謡で

七題の伝統芸能を披露して会場を魅了しました。最後は会場から「ぜひカチャーシーを」と提案があり、にぎやかに参加者全員で踊って交流会を終えました。  
慰霊祭、交流会では宇検村役場の皆さまはじめ地元の皆様さま方の温かいご協力とご理解をいただき、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。新しい交流の機会になりました。

## 11月9日(日)、10日(月)

奄美大島から鹿児島への移動日と悪石島行きフェリーの運航待ち、日程調整などに時間を費やしました。悪石島へは三つの目的がありました。①海上慰霊を行う②悪石島学園へ感謝状の贈呈③慰霊碑の解説板の取り付けでした。記念会があらかじめ用意し郵送していた慰霊碑の解説板の取り付けは、フェリーが欠航となり



悪石島学園の子どもたち

ましたので、現地の方々にお願いくることになりました。また悪石島学園のみなさんの対馬丸慰霊碑の清掃や慰霊祭の開催等、「あおぞら活動」へ感謝し、「感謝状(対馬丸平和貢献賞)」は、教育長を通して校長先生へ贈らせていただきました。

十島村の久保源一郎村長、木戸浩教

育長にもお会いし、昨年の度重なるトカラ列島の地震の際の住民避難等の被害へ募金を贈呈いたしました。(のちに1月23日までに3回に分けて、合計2,007,000円が集まり、無事十島村への募金はすべて贈呈され、今回の募金活動も完了とさせていただきます)



十島村役場にて

## 11月11日(火) 中洲小学校(床並校長)・山川港・「水底のうた」碑訪問

十島村役場を訪問の際に木戸教育長に紹介していただいた悪石島での「あおぞら活動」の発起人である床並伸治教諭は、約30年前に悪石島へ赴任した際に、対馬丸事件のことを知り、慰霊碑を子どもたちで定期的にお掃除し、慰霊祭を開催するなど「あおぞら活動」を始められました。現在鹿児島市内の中洲小学校の



床並伸治先生

校長先生です。私たちはさっそく表敬訪問を申し入れ、いろいろお話を伺うことができ

ました。1997年の対馬丸の船体調査の折には、悪石島の一番高い山から子どもたちに遠く離れた海の沖の方で海底の対馬丸を調査している調査船を見せ、対馬丸の話をしたのだそうです。長年悪石島学園の子どもたちが、対馬丸の慰霊碑を大切にしていたいただき感謝に堪えません。

中洲小学校訪問の後、私たちは指宿市の山川港をめざしました。対馬丸事件当時、海に投げ出された漂流者たちの救助のため、周辺の漁船が繰り出しました。そして主に山川港、そして鹿児島港へ漂流者たちは運び込まれたのです。人数は明らかではありません。多くは山川港にたどり着きましたが、一部の負傷者をして、鹿児島港へと回航し、病院や旅館などに分散され手当てを受けたとのこと。記念会の高良政勝代表理事は4歳の時に山川港へ運ばれたお一人です。81年ぶりの山川港でした。ご両親をはじめ兄弟姉妹合計九人を亡くされたのです。そこで参加者一同



山川港で手を合わせました

線香、お酒やお菓子などを供えて雨の中ではありましたが、ここへたどり着けなかった犠牲者へ手を合わせました。指宿市では、考古学博物館の学芸員を紹介していただき、松崎大嗣さんに繋がりました。山川港に運ばれた生存者たち

が運ばれたところ、あるいは戦時沈没船にまつわる場所や何か情報がないか尋ねました。すると、今では閉校になった山川中学校の敷地内（現在B&G財団があり、体育館の解体工事が行われていた）に、沖縄の戦没船関連の記念碑が建っていることを教えていただき、そこに向かいました。学校跡は体育館の解体工事中でしたが、松崎学芸員のお気遣いで、現場監督へ取り次いでいただき、校庭敷地にある「水底のうた」と題された手を合わせた少女の像を見つめました。それは1994年に沖縄県戦時遭難船舶遺族会が資金を集め、土地を指宿市に提供していただき建立されたもので、少女は沖縄に向かって手を合わせているのだと、後に遺族会の大城敬人さんにお聞きしました。碑には、湖南丸、嘉義丸、台中丸、宮古丸、開城丸の名が刻まれていました。製作は、「海鳴りの像」と同じ宮良瑛子さんでした。



少女像「水底のうた」

11月12日(水)  
宮崎県えびの市の学童疎開の  
痕跡をたどる

《加久藤中学校／野口貴史校長》

学童疎開を通しての平和教育を実施していらつしやる宮崎市の常盤泰代さんか

ら、対馬丸の生存者で現在那覇市にお住いの大嶺正次郎さんから寄贈のシーサーが加久藤中学校にあること、また継続して対馬丸のことを学習し生徒たちが文化祭でも発表している情報を得ました。早速学校へ連絡を入れ、野口貴史校長先生にもお会いできることになりました。



常盤泰代さん

さらに常盤泰代さんに宮崎市からえびの市に駆けつけていただき、急遽お手持ちの対馬丸情報、沖縄学童の宮崎疎開の情報など30分ほどの講話をしてくださいました。そのお話は大変興味深く、また対馬丸記念会役員の皆さんも初めて聞くことも多く、たいへん有意義な講座となりました。そしてそれは、記念館が今後取り組める活動の課題として、重要だと感じました。

まず、対馬丸の生存者は約280人。その後の足取りなどを各証言や聞き取りででき得る限り追跡する必要があります。生存者たちが、特に学童たちが沖縄へ帰郷、そのまま縁故疎開、あるいは同校の学童たちの疎開先へ合流していることなどの情報をできるだけ集めたいと思います。宮崎県には、少なくとも当時の対馬丸生存者である学童が、各学校へ配置された人数のメモ書きが残されていました。

《加久藤小学校／馬場義和校長》

近くにある

加久藤小学校にもお邪魔しました。馬場義和校長から、平成29



大嶺正次郎さんが寄贈したシーサー

年に大嶺正次郎さんから中学校と同じようにシーサーが寄贈されたことを聞ききました。それは校舎の入口ロビーの棚に説明書きを添えられ展示されていました。

《真幸小学校／竹ノ内千春校長》

この学校にも沖縄からの学童が大勢いて、その校区には、対馬丸生存者の児童が住んでいたという情報もあったため、お願いして竹ノ内校長先生をお訪ねしました。事情を話し急な訪問にもかかわらず、大変快くお招きいただきました。校長室の片隅に、ガラスケースに入った琉球人形を見つけ、一同驚きました。近づいてみると、人形の後ろに新聞記事のコピーがビニール袋に入っており、それはかつてこの真幸小学校に疎開をしてきていた今帰仁村からの学童65人のうち、戦後35年目の昭和55年にお世話になったお礼にと23人で学校を訪問した記念に贈呈したものであることが分かりました。



真幸小学校にある琉球人形

11月13日(木)  
鹿児島↓那覇 移動日

最終日、帰沖の日になりました。何よりも皆さまが無事旅の荷を下ろすことができましたことはよかったです。日程変更も余儀なくされましたが、臨機応変に突りある交流の旅だったと感じています。今回の事業で宇検村の方々と交流がご遺族ばかりでなく、合唱団の子どもたちや、芸能団の文化交流に繋がったこと、そしてご遺族同士の世代を繋いだ交流や絆が築かれたことに今後の可能性が見えたような気がいたしました。またいくつかの課題もみつかり、今後の活動の指針になつたかと思えます。

参加された皆さん大変お疲れさまでした。

館長 平良次子



琉球古典愛好会  
の会



しま丸  
児童合唱団

## 対馬丸記念館 秋の職員研修

12月11日、休館日である木曜日、昨年度に続き二度目となる職員研修を行いました。参加者は職員が9名と三役、理事、語り部で生存者の照屋恒さん、つしま丸児童合唱団指導者の高里千穂子先生など、合計15名。マイクロバスで中部の4カ所を巡りました。

### 世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム

2018年にリニューアルオープンしたユンタンザミュージアムは世界遺産・座喜味城跡や読谷で育まれた自然文化遺産を展示しています。

様々なエピソードを紹介しながら楽しく充実した案内をしてくださったのは伊波寛館長。座喜味城跡は沖繩戦中に日本軍の高射砲陣地として利用されたというお話には、武器を運び入れるため無残に破壊された城壁の写真を見ながら強い衝撃を受けました。首里城が地下司令部として使われたことから分かるように、戦争は文化財を守るよりも軍事を優先してしまう現実を表しています。

他にもジユゴンの骨で作られた蝶形骨製品など興味深い考古学資料もあり、古代コーナーもかなり充実していました。



### 読谷村立図書館

2025年10月1日に新しくなってオープンしました。図書貸し出しはもちろんのこと、地元産品を中心としたショップやスターバックスコーヒーも併設され、コーヒーを飲みながら本を読むことができます。明るく開放的な館内には、

OIST(沖縄科学技術大学院大学)のサイエンスタジオというスペースもあり、科学を身近に感じられる工夫が施されていて、世代を越えて人びとが集う素敵な空間をみんなで楽しみました。

### かでな未来館

戦争のため先祖から受け継いだ土地を接収され、その後長きにわたり真相解明を求めた旧地主たちの軌跡を後世に残すために建設されました。

館内説明は嘉手納町教育委員会の町史文化財係・當山知恵さんでしたが、嘉手納空軍基地以外に弾薬庫地区としても嘉手納町は土地を大きく占有されているというお話。その実態を當山さんからお聴きするまで私は知りませんでした。沖縄戦だけでなく、戦後の基地問題についてもきちんと学ばなければと思いました。



### 沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート

沖縄市の戦後の歴史や文化、特に米軍統治下での生活やコザ暴動など、地域特有の歴史的出来事に焦点をあてた展示を行っています。戦後80年企画として「沖縄戦から基地オキナワへ」と題した企画展が2階で開催中でした。ご案内は沖縄国際大学の非常勤講師でもある伊佐真一朗さん。沖縄市は1974年にコザ市と美里村が合併して誕生しています。両村とも戦前までは農業が主体だったそうですが、米軍は上陸後三日で全市

域を占領し、収容所設置と基地建設を開始します。本土攻撃の足掛かりとして造られていった巨大な基地。土地を失った住民たちは基地雇用、基地経済の労働力となり、現在に至る「基地の街」へと変貌した、というお話でした。

### まとめ

今回の研修は読谷村・嘉手納町・沖縄市の中部を巡るバスツアーといたしました。各施設の展示はもちろん充実していましたが、わかりやすく理路整然とした説明があればこそその没入感ある学びの時間でした。自信を持つて説明ができるようになるには、正しい史実を学んで知識を蓄積する必要があります。そう再認識した研修となりました。





# つしま丸児童合唱団便り



## 令和7年度下半期 活動報告

つしま丸児童合唱団では随時団員を募集しております。お申し込みは、対馬丸記念館まで。

### ■ ハロウィン

十月二十五日、対馬丸記念館でハロウィン会が行われました。今年も、外部講師のOswald Castro Romeo先生をお呼びしてメキシコのハロウィン文化に触れました。子どもたちはメキシコの音楽や歴史を学び、異文化交流を楽しんでいました。



### ■ クリスマス会

二月六日にクリスマス会を開催しました。全国郵便局長会の勝俣一明様や全国郵便局長夫人会会長の勝俣裕子様をはじめ、郵便局の皆様、そして育成会の皆様も参加し、一緒にクリスマスの歌を歌いました。またバイオリンの生演奏も鑑賞し、最後はサンタさんも登場しました。子どもたちは大きなプレゼントをもらい、とても大喜びしていました。ご協力ありがとうございました。

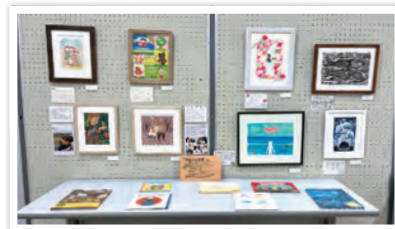


### 「那覇秀作展」と「つながる世界パレスチナのこどもたち」写真展 + 絵本作家の絵画展

12月20日から1月11日まで、二つの企画展を同時開催いたしました。琉球新報学校新聞コンクールと県中学校社会科新聞コンクールで金賞を受賞した作品の中から、平和をテーマにした23点の展示。もう一つは、「つながる世界プロジェクト」主催で全国を巡回しているパレスチナの写真と絵画の展示会です。会場を半分に仕切って展示をおこない、見学者は合計で1443名でした。壁新聞は中学生が自ら決めたテーマについて調べたり、祖父母などにインタビューをおこない、考えたことをまとめてありました。パレスチナ展のほうは、大勢の子どもたちが血を流し、泣き叫ぶガザの状況に対して、声を上げて表現すべきことがあるのではないかと集まった絵本



作家たちが企画したものです。来館者の感想として共感や感動、驚嘆の声が沢山寄せられました。



### 「対馬丸遺族友の会(仮称) 相談会を開催しました」

記念館には「私も遺族です」と名乗り出てくださる方や、協力会員の中にもたくさんのご遺族がいらっしゃいます。1月31日に18名のご遺族が集まり今後の組織体制、活動内容や事務局体制について意見交換を行いました。新しい動きに期待したいです。



### イベント・行事

● 11月15日～12月9日

#### 移動展「読谷村と対馬丸」

対馬丸記念館移動展「読谷村と対馬丸」を読谷村の世界遺産遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアムで開催しました。6日には対馬丸事件の遺族である外間邦子常務理事の講話を予定しておりますが、あいにく講師がインフルエンザに罹患してしまい、急きよ代理の職員が登壇しました。



● 12月30日  
小桜の塔すすはらい



役員や館長、職員など総勢6名で清掃と除草などをおこないました。



● 1月17日

#### 「語り部養成講座」開催中

二年ぶりに「語り部養成講座」を開催しています。受講生は3名。現役語り部や対馬丸事件研究者の講話、慰霊碑フィールドワークなど半年間の学びで、それぞれの語り部スタイルを作り上げていただくことを目指します。



### トピックス

● 12月6日

#### クリスマスプレゼントはこいのぼり

全国郵便局長会会長の勝又一明さんと全国郵便局長夫人会会長の裕子さん夫妻からこいのぼり15匹分を贈呈いただきました。



● 1月19日

#### 新しい門標の除幕式

記念館入り口の新しい門標除幕式をおこないました。揮毫は前回と同じ

● 11月3日

#### 外間常務、県功労者に

2025年度県功労者に外間邦子常務理事が選ばれ、那覇市のパシフィックホテルで表彰式がありました。



● 11月28日

#### ちゅうらうちなー草の根平和貢献賞

対馬丸を題材とした平和劇の上演に取り組み那覇青少年舞台プログラムが「第4回ちゅうらうちなー草の根平和貢献賞」を受賞しました。



● 12月23日

#### 二度めの水中調査

内閣府は対馬丸の船体調査を実施したと発表しました。船体外周を撮影し、周辺から木片や土砂を採取したそうです。本年度内に分析結果の詳細を公表する方針です。

● 1月23日

#### 十島村の村長ご来館



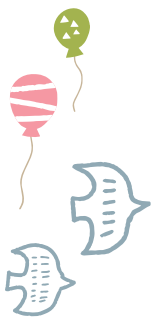
悪石島地震の義援金を受け取った十島村の久保源一郎村長らが記念館を訪れました。被災者生活支援で対馬丸記念会が始めた募金活動では合計2百万7千円を義援金として悪石島自治会と十島村に贈りました。

記念館外階段前の桜(寒緋桜)が美しく咲きました。

通りがかった人たちが足を止めて、写真や動画を撮る姿が見受けられます。



# 対馬丸 平和継承プログラムについて



記念館で事前学習中

## 第四回対馬丸平和継承プログラム

は昨年六月から県内の小学校五・六年生十名が参加して研修がスタートしました。台風の影響で二度の延期がありました。台風の影でその分子どもたちと向き合う時間が増え、より深い学びにつながる機会となったと思います。事前研修では対馬丸事件をはじめ、沖繩戦や十五年戦争、そして対馬丸と奄美大島との繋がりについて学びました。また、小桜の塔や海鳴りの像など記念館周辺のフィールドワークを行い、さらに外部講師として宮崎県を中心に平和学習をなさっている常盤泰代さん、対馬丸の証言を収集している大島綾さんによる講話を聞くことが出来ました。舞台「生きているから」対馬丸ものがたりも鑑賞し、様々な「平和を伝える方法」に触れました。



飛行機で奄美へ



船越海岸で黙とう

さんからは、船越海岸に建っている「対馬丸慰霊之碑」建立時についてお聞きしました。元田さんは対馬丸記念館で体験者から聞き取

り調査を行い、また「宇検村でも手を合わせる場所が欲しい」という声を聞いて「対馬丸事件を次の世代に語り継ぐべきだ」と実感したそうです。そして二〇一七（平成二十九）年、船越海岸に「対馬丸慰霊之碑」が建立されました。子どもたちは元田さんの「対馬丸事件は、自分たちの地域で起こった歴史として捉えて次世代へ残していくことが大事」という言葉をしっかりと受け止め、船越海岸で黙祷を捧げていた姿が印象に残っています。



右端が中山昭二さん

本研修は昨年に引き続き、奄美大島へ向かいました。当初は対馬丸の子どもたちがどんな気持ちで船に乗ったのかを感じてもらうため、船で向かう計画でした。しかし台風の影響で研修が二回延期となり、三回目の今回はやむを得ず飛行機で向かうことになりました。一日目は奄美パークを訪れ、奄美大島の文化や自然について学びました。子どもたちからは「沖繩と似ている部分が多い」「気候もほとんど変わらない」といった声が多く聞かれ、展示を興味深そうに見学したり、古民家のブースで楽しそうに過ごしたりす

る姿が印象的でした。二日目は、宇検村に向かい大島英世さんと元田信有さんのお話を聞きました。大島英世さんは、事前研修でお世話になった大島綾さんの父親で、英世さんからも奄美大島や宇検村の歴史についてお話をうかがいました。枝手久島に大正一〇年から三〇年間、沖繩県久高島から移り住んだ「カマツシユ」と「アヤツグワ」は太平洋戦争について「いまの指導者たちは猫の頭より悪い」と言って太平洋戦争に負けることを予言していたそうです。そして元宇検村村長元田信有



左から大島英世さん、元田信有さん、宇検村教育委員会の藤貴史さん

さんからは、船越海岸に建っている「対馬丸慰霊之碑」建立時についてお聞きしました。元田さんは対馬丸記念館で体験者から聞き取り調査を行い、また「宇検村でも手を合わせる場所が欲しい」という声を聞いて「対馬丸事件を次の世代に語り継ぐべきだ」と実感したそうです。そして二〇一七（平成二十九）年、船越海岸に「対馬丸慰霊之碑」が建立されました。子どもたちは元田さんの「対馬丸事件は、自分たちの地域で起こった歴史として捉えて次世代へ残していくことが大事」という言葉をしっかりと受け止め、船越海岸で黙祷を捧げていた姿が印象に残っています。

その後、大和村文化財保護審議委員長中山昭二さんと合流し、大和村にある三か所の埋葬地を巡りましたが、最初は今里漁港に向かいましたが、そこには大きな崖がありました。その崖の裏側を生存者の上原清さんたちが上ったそうです。次は名音に向かい、十八名の犠牲者が流れ着いた所で黙祷しました。ここでは大和村の中で一番多くの犠牲者が流れ着きました。三か所目は戸円という地域で、犠牲者が五名流れてきました。その内一名は先生、四

名は生徒たちで、手首をロープでつなげられていたそうです。宇検村だけではなく、大和村にも対馬丸との深い関りがあることを改めて実感できました。

夜は守田アキさんの講話を聴きました。アキさんは対馬丸事件で兄の秀雄さんを亡くしました。兄弟の中でも一番秀雄さんが優しく、その秀雄さんが対馬丸に乗るなら自分も乗りたいと当時アキさんはお母さんに話していたそうです。お話の最後には、涙を流しながら「家族を大切にしたい」と子どもたちにも伝えていました。当時の様子を知っている中村恵子さんと春日シズエさんからお話を伺いました。



左が守田アキさん

本研修で奄美大島の方々に大変お世話になりました。参加した子どもたちが、対馬丸のことを多くの人々に伝えてくれることを願っています。

学芸員

嶋袋 寿純

### ご寄付

#### 大口寄付(敬称略)

池田美子

1月12日

一般財団法人垣花奉頌会

9月19日

津波剛

9月13日～1月11日

有限会社ヘルスサポート

9月12日

#### 令和7年9月1日

#### 令和8年1月31日(敬称略)

溝上加代子、青木忠昭、青木玲子、浅田尚宏、足立理一郎、厚東教子、阿部圭助、新垣匡子、新垣米子、荒川恒光、新城園枝、有馬紀子、安藤和枝、池田宏、池原嘉寿子、池原嘉寿子・嶺井憲子、井坂猛、石川正次、石崎幸喜、石田哲男、石塚勲、石橋薫・百合子、伊志嶺豊和、伊是名加江、一般財団 千葉遺族会、一般社団法人クラボ沖縄代表理事 添石幸伸、伊藤直樹・明美、伊藤眞喜子、糸田川廣志、稲葉司、稲葉芳江、伊波洋正、井町良治、上島茂樹、上門根美、上江洲出、上原恵子、上原真司、上原奈々、上間勝子、魚谷早苗、宇根純子、小穴いづみ、大槻裕治、大治正雄、大田光子、大野裕、大庭好子、大山日出男、大湾朝明・美智子、岡本百世、奥間敬子、小田啓子、翁長晴永、垣内富貴子、風間沢登、加藤重治、金子堅二、金子秀夫、兼元和子、樺島由彬、株式会社エバーグリーンモビリティ、亀田厚子、唐井雄三、川久保常明、川田佳明、川満清栄、菊地一也、菊地洋、

岸本幸秀、北浦眞輝、宜名眞登喜子、宜野座久美子、木村光枝、喜屋武義範、金城裕子、金城昌昌、久高政治、國吉誠、久場建二、隈元美美子、慶田盛てい子、小坂律子、義永節子、幸地秀子、東風平朝淳、後藤顕治、後藤美枝子、近藤習子、齋藤幸江、酒井俊一、坂本誠志郎、坂本理美、崎浜盛久、佐久本まり、佐々弘美、佐々木信忠、佐々木寛、佐々木正広、座覇君子、座間味由美子、座安静枝、塩田平一、柴原智幸、島袋珠子、ジョイネス沖縄、白井洸子、志良堂清毅、城間涼子、藍・康幸、新里末子、新里尚美、新里肇、末吉藤乃、杉田はるみ、鈴木房枝、住吉誠、税理士法人添石綜合会計事務所代表 表税理士 添石幸伸、芹川美和、全国浄土宗青年会選澤寺内事務局 山本和明、添石事務所職員一同、大慧會教団会長 石倉寿一、平良順一、平妙子、平良次子、平良美智雄、高橋英子、高嶺明彦、高柳雄一、高良邦弘、高良博、高良政勝、たから齒科、詫間幸江、武田久美子、竹村恭一、田所由起子、玉城雄一、チュウゴクジンノテンセイシヤ、照屋輝子、照屋恒、東京都教職員組合、當間嗣朝、渡口眞常、徳元めり子、渡久山 久子、富田勇、友利潤子、豊坂昭弘、鳥居富美、内藤啓子、仲尾昭子、中川健二、仲里正博、長嶋和人、仲宗根明美、仲宗根泰昭、仲宗根正、中原一美、仲原正昇、仲間初子、中村篤、中村澄子、中村祐一、中山功枝、名嘉山興武、中山肖子、中山萌、名城郁子、波平まき子、西

川博、西口忠、西沢洋明、西原幸子、西脇美保、沼口照千代、野里千恵子、野原正子、野原峯子、橋本敏明、橋本明典、小島紬・善、花山様他4名、来館者、羽生恵美子、浜川啓子、羽角淳一、比嘉悦子、比嘉早苗、比嘉芳江、東日本旅客鉄道労働組合東京地方本部、比嘉吉直・紀美代、平井美智子、平松祐子、広川ヨシ子、福永忍、藤原房子、法雲寺、外間寛、舞い、一心比嘉あゆみ琉舞研究所、真栄城嘉愛、前城康一、真栄城徳秀、前田敬昭、前田正宏、真志取京、増田恵子、又吉喜代、又吉國雄、又吉静枝、松井正孝、松本勝幸、松茂良米子、緑間美代、湊崎博、南哲夫、嶺井憲子、御幡眞理、宮池雅史、宮城貞子、宮崎進、宮里八重子、宮地慶子、村山弘行、室屋秀憲、森安幸代、屋宜秀信、屋宜政和、山内久美、山内康司、山口至彦、山崎浩、山里将進、山城美津子、山田美登里、山中友子、山村彰義、横井恒子、吉田和子、吉田創、吉平弘一、与那覇寛信、和田みどり、渡邊史博

